

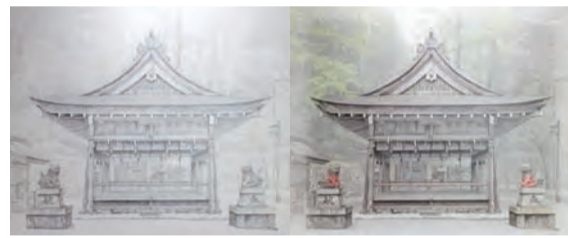
Gallery PARC

林宗一郎×ヤマガミユキヒロ

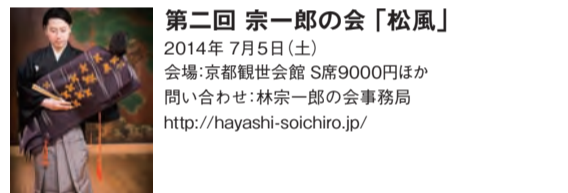
能楽師と現代アーティスト、異色のコラボレーション。世界で初めての「絵画の中の舞」



京都を拠点に活躍する能楽師・観世流シテ方の林宗一郎と、現代美術家 ヤマガミユキヒロとの異色のコラボレーション作品が、Gallery PARCで発表された。ヤマガミは、風景画の上に同じ場所で撮影した映像を投影する“キャンバスプロジェクト”という手法で作品を制作するが、今回、ヤマガミの描いた野外の能舞台の絵画の中で林宗一郎が舞い、作品の中でふたつの映像を重ねて作品をつくるという、かつてない試みに挑戦した。600年以上の歴史を持ちながら現代の表現でもある能楽と、現代アートの出会いがもたらした化学変化は、能楽が、アートの素材として分解・再構築され、新たな魅力や可能性を見せるというのだった。



noh play vol.1 [能楽師：林宗一郎×現代美術家：ヤマガミユキヒロ]は2014年6月18日(水)～6月29日(日)に開催された。



第二回 宗一郎の会「松風」
2014年 7月5日(土)
会場：京都観世会館 S席9000円ほか
問い合わせ：林宗一郎の会事務局
<http://hayashi-soichiro.jp/>

Special cross talk 茂山逸平、林宗一郎、ヤマガミユキヒロ 伝統とアートの、遠くて近い距離？

—今回、林宗一郎さんは、ヤマガミユキヒロさんと映像作品を一齋につくことをどう思われましたか？

林 初めは、映像の前で舞うということが分からなくて…。でも、もともと能は自然の中で演じられてきたものなので、以前から、いろんな場所に「降り立ちたい」という希望があって、いろんなところでやりたいなと思っていました。

ヤマガミ 人工の絵の中に入ってもらったことになったんですが…。
林 そういうのかしたかったんです(笑)。

茂山 現代アートで見て分かりにくい作家が多いけど、ヤマガミさんの作品は、素人にも分かるし、楽しめる作品ですね。

ヤマガミ 現代アートでも解説を読まないといけない作品はあって、それは伝統芸能も同じ。僕はあえて事前に予習をせ

ずに初めて能を見に行っただんですが、カッコいいと思える部分が逆にハッキリ分かった。洋楽にハマる時も英語の意味が分からなくても感じるものがあるじゃないですか。

茂山 海外で公演をすると、観客に先入観がないから、子供と近い素直なリアクションで、やりやすいです。

林 言葉がなくても伝わるんだな、ということが分かりますね。
ヤマガミ 映像との共演はどう思われます？

茂山 フランス公演で、役者の背景に白い幕を張って、そこに吹き出しのように台詞を投影したことがあって、すごくよかった。

林 物語のヒントとなるような映像を見せながら上演したことがあります。ヒントがあることで、状況がよくイメージできたという声がありました。音響や映像とは、今後も共演したいですね。



profile
高山逸平 (右) 1979年 京都府生まれ。狂言方の能楽師。俳優としてNHK連続テレビ小説「オドリ」に「にもろ」ほかドラマでも活躍。
林宗一郎 (中央) 1979年 京都府生まれ。観世流シテ方。13世林嘉右衛門、26世観世宗家。観世清河斎に師事。2011年に独立し、自主公演「宗一郎の会」を主催。
ヤマガミユキヒロ (左) 1976年 大阪府生まれ。京都精華大学美術学部卒業。第11回 日本太郎現代芸術展特別賞受賞。個展、グループ展多数。

Gallery PARC

GRAND MARBLE

Gallery PARC 2014年後半のスケジュール

今年より開催する公募企画「Gallery PARC Art Competiton 2014」で選ばれた3つの展覧会。

7月1日(火)～7月13日(日)
「薬師川千晴 展：絵画碑 Obelisk picture」(絵画)
作品に用を射り、そこに完成される「絵画碑」という独自の絵画思考を表現する。

7月15日(火)～7月27日(日)
「むらたちひろ 展：時を泳ぐ人」(染織)
過去の記憶や夢の風景をテーマにした染織による新作を展示。

7月29日(火)～8月10日(日)
「A Sense of Mapping -私の世界の測り方-」(絵画・立体)
森川樺キレション、松本純子「山城優摩による「地図感覚」をテーマにした二人展。

8月14日(木)～8月24日(日)
「タイトルとホコラとツーリズム」(フィールドワーク)
中村裕太・谷本研が、京都の街中にある「タイトル」と「ホコラ(地蔵など)」を調査し、市内ホコラ巡りツアーやトークイベントなどの参加型プログラムを開催。

8月30日(土)～9月14日(日)
「ふるさとはるか展」(版画)
身近にとれる土からつくった絵具や木版画により、自然素材を通して異なる時代や風土を読み替える作品・場づくりを展開。

9月16日(火)～9月28日(日)
「KYOTO EXPERIMENT 2014 関連企画」(展示・パフォーマンス)
本展で5回目となる京都国際舞芸芸術祭「KYOTO EXPERIMENT」の関連企画展示。

10月3日(金)～10月19日(日)
「牛島光太郎 展」
布と糸を用い、コトバとモノによって「糸でつくる物語」を紡ぎ出す牛島光太郎による個展。大阪での個展と同時開催され、その新作の全貌を見せる。

詳しいスケジュールはWEB参照
※展覧会のタイトルは、いずれも仮です。また、内容・日時などは予告なく変更する場合がございます。

御池通	地下鉄京都市役所前駅
ル・グランマールカフェ クラッセ 2F Gallery PARC	
三條通	三條通
河原町通	河原町通
西本町通	西本町通
西条通	西条通

京都市中京区弁慶石町48(三条通御幸町西北角)三条あかりもとビル
「ル・グランマール カフェ クラッセ」店舗内2F
Tel・Fax. 075-231-0706 11:00～19:00(全曜日のみ20:00まで) 月曜休
<http://www.galleryparc.com/>

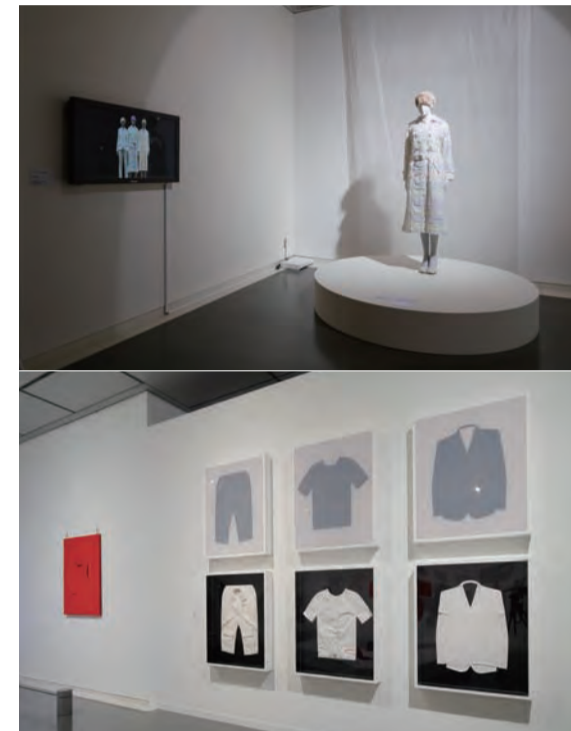
Trend News

ANREALAGE

日本ファッション 30年の革新を塗り替える、アンリアレイジ、森永邦彦のクリエイション



ANREALAGE / 森永邦彦 2013年秋冬 ©ANREALAGE
2013-2014 ANREALAGEの秋冬コレクションで発表された「COLOR」,紫外線によって白から赤、青、緑に色が変わるドレス。光線を遮断するとまたもとの白に戻る。



上:人工太陽が定期的に照射される部屋で展示されたドレス。
下:ANREALAGEの2010年春夏コレクションで発表された作品「SILHOUETTE」,服がたたため方によって別の服のシルエットに見えるインスタレーション。

日本ファッションの30年を振り返る展覧会、「Future Beauty 日本ファッション:不連続の連続」が、2010年ロンドンを皮切りに、内外を好評のうちに巡回し、2014年3月21日～5月11日に京都国立近代美術館で開催された。この展覧会で紹介された、欧米のファッションの価値観を揺るがしてきた日本のファッションクリエイターの重要な1人として、ANREALAGEの森永邦彦の作品が展示された。

会場で、人工太陽を照射する特別な部屋に展示されたのが、光でドレスの色が変わる作品「COLOR」。紫外線に当たると分子構造の変化で発色するフォトクロミズムという技術を使っ

たものだ。この技術はこれまで布に用いられたことはなかったが、森永のクリエイションの姿勢に共感した京都の染色メーカー、小杉染色が初めて挑戦した。展覧会の関連レクチャーに登壇した森永邦彦は「光で色が変化する服というアイデアは、“普通に服を着る中で起こる現象”を作品にしたいという発想から始まった。初めはそんなことが出来るとは思っていなかったが、今まで使われて来なかった手法を取り入れて、ジャンルの壁を超えてものづくりをしたい、前へは進めない」と語った。前例のない、布へのフォトクロミズム染色が完成したのは、コレクションの2週間前。ショーでは、モデルが身に付けた白い



©京都服飾文化研究財団
展覧会は、ロンドン、ミュンヘン、東京、シアトルなどを巡回し、このあと2014年秋にオーストラリア、ブリスベン、クイーンズランドアートギャラリーで開催される。

服がライティングで徐々に発色。その瞬間、観客からどよめきが起こった。「洋服を見てあっと驚くことが大切で、しかも、それをどうファッションと離れないようにするか。「COLOR」では、それをうまく着地できた」。日本ファッションの先鋭的なアイデアとコンセプト、そして京都という伝統のもののづくりの土壌とがコラボレートした、日本を代表するクリエイションだ。

森永邦彦
profile ANREALAGEデザイナー。1980年東京都生まれ。早稲田大学、バンタンデザイン研究所卒業。2003年、アンリアレイジを設立。2005年、ニューヨークの新人デザイナーコンテスト「GEN ART 2005」でアバンギャルド大賞を受賞。2011年、第29回毎日ファッション大賞新人賞、賞状堂奨励賞受賞。

NEXT BREAK Profile Vol.5

杉山麻衣さんが、いまイチオシの俳優をプロフィール。新しい才能をいち早くキャッチ！

清水富美加

ABOUT Fumika Shimizu

少女雑誌の専属モデルから、『仮面ライダー フォーゼ』のヒロイン・城島ユキキ役でドラマデビュー。演技からVJまで、とにかく活躍が多彩な清水富美加。「自分にとって難しいのは、殻を破ること。考えすぎてしまうタイプなのでピクピクして無難な方向に行きがちなんです。もっと強くなりたいです。」と言いつつ、ブログには、お笑いタレントも顔負けのユーモアセンスが満載。天性のコメディエンヌという才能もかがみせる。「笑わせようとする時は多々あります。でも、そうゆう時は全然受けません(笑)。もう怖いんです。ネタは一日過ぎていて、とりとめないことでも自分に引っかかったら、そこを切り取ったりします」と、人を楽しませることがいつも心から離れない様子は、無邪気に見えて、実は仕事に真摯なプロフェッショナルでもあるのだろう。少女性とエンターテイナー性が同居する、新しい才能の登場だ。



Profile 1994年東京都生まれ。女優。主な出演作に、『仮面ライダーフォーゼ』、『HK / 愛恋仮面』などがある。6月21日スタートのドラマ「魔法☆男子チェリズ」(テレビ東京系)にヒロイン役として出演の他、7月7日スタートBS月曜ミステリーシアター「ペテロの群列」,8月19日スタートNHKドラマ10「聖女」にもレギュラー出演が決定している。その他、バラエティでも活躍中。最新情報はオフィシャルファンクラブ <https://fumika-shimizu.espro.co.jp/>(会員登録無料)でチェック!



マーブルフィルム
キャスティングディレクター
杉山麻衣のコメント

今年、ハタチですが、彼女の持つキラキラとした少女性に魅力を感じました。この世代の可愛い女優さんは数えきれない程いますが、“チャーム”という言葉がここまで嫌味なく似合う人はそんなにいないのでは?彼女と会った時、「次は何をするのかな、どんなことを言うのかな?」と、一挙手一投足から目が離せなくなり、さらに想像を超えたものが飛び出してくるので面白かったです。ポテンシャルを秘めた女優さんだと思うので、それを開花させられる監督や作品と引き合わせられたら嬉しいです。作品を通して、大人の女性になっていく過程を見ていきたいですね。

Profile 愛知県出身。主に映画や舞台のキャスティングを担当。最新作:「クロス EXPLODE」(監督:豊田利晃)、「新宿スワン」(監督:園子温)、ミュージカル「薄桜鬼」(風間千景) マーブルフィルム公式 HP <http://marblefilm.jp/>